

第2081号  
2023年11月12日  
日本共産党根室市議団  
根室市宝林町4-203  
TEL 23-6023  
FAX 24-1684

# パレスチナに平和を！ 平和と音楽について考える

イスラム組織ハマスとイスラエルの戦闘が始まって1か月が過ぎました。即時停戦と一刻も早い平和の訪れを心から願う立場から、この地域での、奇跡のような音楽の取り組みについてご紹介します。  
(文責：鈴木一彦)

10月7日、ハマスがイ

スラエルに大規模攻撃、イスラエルがガザ空爆を開始して以降、双方の死者数は1万人を超えています。そのほとんどがパレスチナ・ガザ地区の住民で、うち子ども犠牲は4千人を超えています。

この地域の和平のためには、日本共産党が主張しているように、①イスラエルの占領地からの撤退、②パレスチナ独立国家樹立を含む民族自決権の実現、③両者の生存権の相互承認という三つの原則を踏まえた取り組みが必要です。

一方で、この地域には、民族、宗教の壁を越えた取り組みが行われていました。おそらく現在も、それは、「ウエスト・イースタン・デイヴァン管弦楽団」です。

ウエスト・イースタン・デイヴァン管弦楽団

(West-Eastern Divan Orchestra)

ウエスト・イースタン・デイヴァン管弦楽団(以下デイヴァン管弦楽団)は、1992年にユダヤ系指揮者ダニエル・バレンボイム※とパレスチナ系文学者のエドワード・サイードによって設立されたオーケストラです。楽団名は、ゲーテの著作「西東詩集」からとられました。

このオーケストラの最大の特徴は、団員が、対立を続けているイスラエルとヨルダン・レバノン・シリアなどのアラブ諸国出身の若き音楽家たちであることです。

※ダニエル・バレンボイム(1942年11月15日生まれ)は、アルゼンチン出身のユダヤ人ピアニスト・指揮者。現在の国籍はイスラエ

ラル。30代までにピアニストとしての名声を確固たるものに。また、20代後半からは指揮者としても活躍し、ウィーンフィル、ベルリンフィルなどと共演多数。イスラエル国籍を持ちながら同国の「征服と支配」の立場を批判。パレスチナとの共存を訴えている。

デイヴァン管弦楽団では、例えばシリア人とイスラエル人のチェロ奏者が隣り合わせになり、譜面台を共有します。そして演奏では息を合わせます。バレンボイム氏は団員達に次のように言います。「相手の言うことすべてに同意しなくてもよい。ただし、それを理解するよう努め、敬意を払うようにしてほしい」と。

この言葉にこそ、デイヴァン管弦楽団の神髄があるように思います。相互理解と敬意。国や民族が対立しているも、音楽を通して一つになることができま

す。そしてそれは平和につながります。一刻も早くパレスチナの地で平和の音楽が奏でられますように。

## 鈴木、「コロナ」にかかりました！

10月3日、咽の痛みを感じつつ就寝。翌朝目覚めたときに身体の異常(頭痛、倦怠感等々)を感じ、熱を測ったところ38.5度！市内の民間医療機関の発熱外来を予約しました。

12時、発熱外来を受診。医師が鼻の奥に綿棒を入れ、鼻腔・咽頭拭い液を採取して検査する方法。数分待った後、「陽性です」。血中酸素濃度や心音聴診なども行い、「軽症です」と。少し安心しましたが、コロナであることには間違いありません。医師からは6日までの自宅療養を言い渡されました。

処方薬ですが、コロナの治療薬が5類移行に伴い補助がなくなり、9千円かかるとのこと。医師から「どうしますか」と問われ、市販薬を選びました。610円でした。薬は、調剤薬局が自宅の郵便受けに届けてくれました。

ちなみに、インフルエンザの検査も受けたのですが、そちらは陰性でした。

闘病生活の始まりです。1月1日はとにかく熱が高くて(39度まで上がった)、ずっと寝ていました。

その後は、少しずつ熱が下がり始め、3度台になると身体はだいぶ楽になりました。咽の痛み、咳はつらい状況が続きましたが、それも、日が経つにつれ、徐々に回復していきました。思えば、発熱、咳、咽の痛みなど、私のコロナの症状は、風邪と同様のものでした。

味覚障害？  
甘い、塩辛い、酸っぱいなどの基本的な味は感じるのですが、微妙なうまみが良くわかりません。ただ、